



暑さも少し和らいだように感じる今日この頃です。しかし、今年の夏は、「新型コロナウイルス感染症」「猛暑日」「大雨による災害」等、毎日が落ち着かない日々を過ごした夏だったのではないのでしょうか。日照りの中、マスクを着けることによる「熱射病」で搬送される人が多い夏でした。そんな中、ここ幼稚園・保育園では2学期が始まりました。9月1日に子ども達の元気な顔を見た時「子供たちの持つ力強さ」を感じ、頼もしくまた、元気で過ごしてくれていたことに私自身元気を貰いました。(職員も同じだったと思います。)

今学期は、いつもなら行事が目白押しですが、9月の対外行事はすべてが中止。また、園の「敬老クッキング」も、子ども達のみで行うよう計画しています。

更に楽しい「運動会」も、例年通りではなく保護者の皆さまにはご不便をお掛けする事になり心苦しく思いながらも、どうしても「コロナ感染症」が、頭をよぎり、「3密」を避けるための方法を取らせて頂くことにいたしました。が、十分ではないかも知れません。

こんな状況でも、子供たちの笑顔が見られるように職員ともども、出来る限り子どもと一緒に今出来ることを考えながら、遊び、楽しい教育・保育を行います。行事についても、よりよい方法を模索しながら保護者の皆さまが参観できるような取り組みをさせていただきます。

保護者の皆さまには、ご不便な思いをさせてばかりで本当に申し訳ありません。



今、保育園「たんぽぽ」に、教育実習生が保育士になるための現場での「保育」の実践を行っています。先日、1歳児の「設定保育」がありました。実習生が「絵本を読んだり」「ブドウの制作」を行ったのですが、落ち着いていて、1歳児も実習生の話を静かに聞いていて、椅子の上に立ったり、降りたりウロウロすることはありませんでした。実習生と他の保育士と一緒に制作をしているのです。その姿を見たときはびっくり。そして、1歳児の成長の早さにまたまたびっくり。この年齢の子どもは、大人との繋がりによっては、多くの物を吸収する力は凄いです。ということは、親も保育士も子どもと向き合い、甘えられる、甘えさせてくれる大人がいることは、子どもにとっては大事なことで



人と付き合う

子ども達は、バスで登園。親の送りで登園と様々ですが、朝、玄関でお迎えするとき、ほとんどの子どもは、連れてきた保護者に「笑顔」で、バイバイをします。中には、親と離れたくないのかぐずる子どももいますが、教室に入ると何事もなかったように、朝のお仕事をそれぞれの年齢に合わせて行っています。そこに友だちがいるからです。子どもにとって同じ年齢のお友だちとは、衝突があり、いさかいがあり、遊びに中に入れずに嫌なことも多くあり、幼稚園に行くことをぐずるかもしれないのですが、いざ、教室に入ると、楽しく遊んでいます。お絵描きしたり、ブロックで数人と遊んだり、パズルを黙々と行ったりと、友だちと似たような遊びをして、同年齢、異年齢の輪を広げています。友だちと遊びながら、「学び」を広げ、友だちとの人間関係を小さいながらも作っていていると思います。妥協したり、譲り合ったり、主張したり、話し合ったり皆で楽しむことによって、人と付き合うことの大切さを学んでいるのではないのでしょうか。

